

ゼルフイルム[®]

Gelfilm[®]

眼科用ゼルフイルム[®]

Ophthalmic Gelfilm[®]

貯法：室温保存。乾燥した場所に汚染を避けて保管すること
使用期限：最終年月を外箱等に記載

注)注意—医師等の処方箋により使用すること

	ゼルフイルム	眼科用ゼルフイルム
承認番号	I4100AZY00180	I4100AZY00181
薬価収載	1967年7月	1967年7月
販売開始	1967年7月	1967年7月
再評価結果	1983年4月	1983年4月

※※【禁忌（次の患者には使用しないこと）】
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1,000 cm²中、日局ゼラチンを硬化した吸収性フィルム14gを含有する製剤である。

2. 性状

本剤は淡黄色の透明なフィルムで、厚さ0.076～0.228 mmである。また、わずかに特異なおいがある。水に溶けないが水中で徐々に軟化する。

【効能・効果】

脳神経外科、胸部外科及び眼科手術後の癒着防止

【用法・用量】

適量を生食塩液に浸して柔軟化させ、適所に被覆するか又は挿入する。本品は組織に吸収されるので体内に包埋しても差し支えない。

【使用上の注意】

1. 慎重使用（次の部位には慎重に使用すること）

視神経及び視束交叉の周囲〔圧迫により視力障害を起こすことがある。〕

2. 重要な基本的注意

本剤は殺菌作用を持たないので、感染の可能性が高い場合には、適切な処置を考慮すること。

※※3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

重大な副作用

ショック（頻度不明）、アナフィラキシー（頻度不明）：ショック、アナフィラキシーがあらわれることがあるので、観察を十分に行い、全身発赤、呼吸困難、血圧低下等の異常が認められた場合には使用を中止し、適切な処置を行うこと。

4. 適用上の注意

(1)使用方法

使用に際しては無菌的に取扱い、開封後はできるだけ早く使用すること。

(2)開封後の未使用分

- 1)未使用分は廃棄すること。
- 2)再滅菌使用は行わないこと。

【薬効薬理】^{1～6)}

- 1.ゼルフイルムは吸収されるまでの期間、物理的に組織の癒着を防止する。
- 2.イヌの脳硬膜欠損部にゼルフイルムを補填した結果、新生脳硬膜と脳表面との間に癒着は認められない。

【包装】

ゼルフイルム：100×125 mm 1枚入（滅菌封入）
眼科用ゼルフイルム：25×50 mm 6枚入（滅菌封入）

【主要文献】

- 1)生井 浩：眼科 8(5)：418, 1966 [L20030610089]
- 2)塚原 勇ほか：臨床眼科 21(8)：969, 1967 [L20030610091]
- 3)丸尾 敏夫ほか：眼科臨床医報 61(9)：830, 1967 [L20030610093]
- 4)長嶋 孝次：臨床眼科 22(3)：309, 1968 [L20030610095]
- 5)湖崎 克ほか：臨床眼科 24(2)：245, 1970 [L20030610103]
- 6)宮崎 雄二ほか：脳と神経 21(10)：1089, 1969 [L20030611004]

【文献請求先】

ファイザー株式会社 製品情報センター
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
学術情報ダイヤル 0120-664-467
FAX 03-3379-3053